

「企業庁水道ビジョン」および次期「経営計画」の策定

【 予算額 7, 2 6 9 千円 】

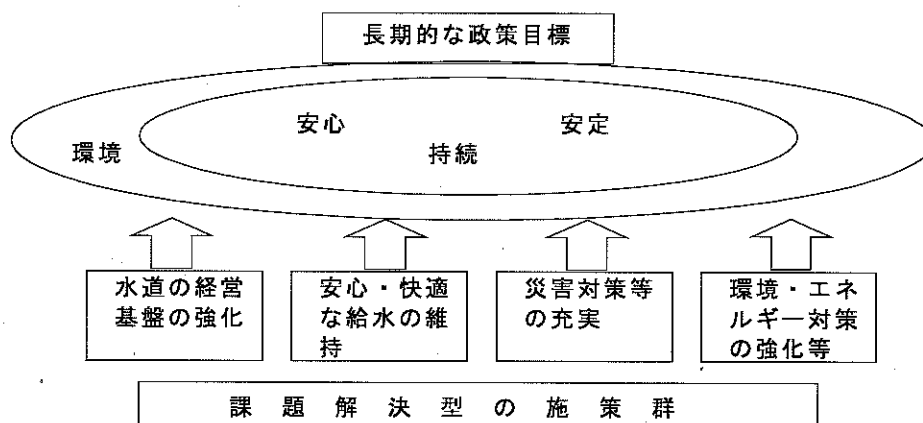
1. 概要

企業庁の施設は、整備後 40 年を経過したものもあり、今後、大規模な更新時期を迎えることとなるため、アセットマネジメント（資産管理）の視点に立った長期的かつ効率的・効果的な水道施設の更新計画の策定が必要となっている。このような状況下、平成 23 年度には水道用水供給事業の統合を控えており、現状と将来の見通しを分析・評価した上で、目指すべき将来像を描き、その実現のための方策等を含めた「企業庁水道ビジョン」を来年度新たに策定する。

「企業庁水道ビジョン」の策定にあたっては、厚生労働省の「水道ビジョン」の方針を踏まえつつ、学識経験者等からなる委員会を設け、外部意見も取り入れながら策定にあたる。

また、「経営計画」は、現計画が平成 22 年度に計画期間が終了するため、「企業庁水道ビジョン」の実施計画として位置付け、併せて策定する。

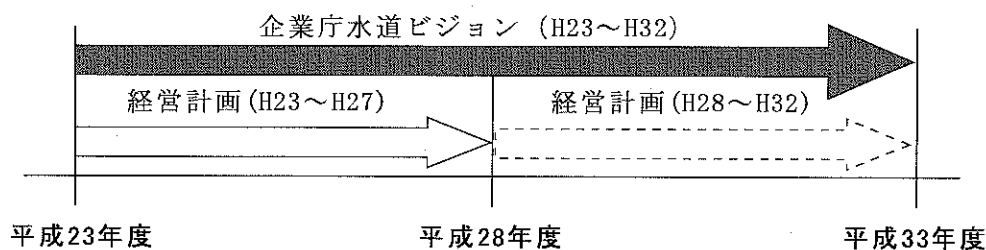
「企業庁水道ビジョン」政策目標、施策群のイメージ



2. 「企業庁水道ビジョン」の内容

- ア. 事業の現状分析・評価
業務指標（PI）等を活用した現状の分析・評価
- イ. 将来像の設定
安心・安定・持続・環境等の視点で設定
- ウ. 目標の設定
目指すべき将来像に対する施策ごとに設定
- エ. 実現方策の検討
計画期間内に実施すべき方策の検討、取りまとめ

3. 計画期間（予定）



災害や事故に強い施設づくり

【 予算額 1, 468, 806千円 】

1. 概 要

平成19年度に策定した経営計画に基づき、水道用水供給事業について、地震等の危機管理対策として、送水管路の耐震管によるバイパス化を図るため、西部幹線送水管の布設工事や八幡安土バイパス管路の詳細設計を行う。また、既設水管橋の耐震補強を計画的に実施するとともに、老朽化管路の計画的・効率的な更新に向けた管路更新基礎調査を引き続き行い、より安全で安定した水道水の供給を行う。

2. 経営計画による水道用水供給事業管路耐震化率目標

平成22年度末 25.5%

3. 平成22年度事業費

約 1, 469百万円

4. 平成22年度実施事業

- ① 西部幹線送水管布設工事（南部上水） L=2, 350m
 - ② 八幡安土バイパス管路詳細設計業務（中部上水）
 - ③ 佐久良川水管橋下部耐震補強工事（中部上水）
 - ④ 管路更新基礎調査業務〈その2〉（上水） L=150km [(工水) L=106km]
- 他

5. 平成22年度末水道用水供給事業管路耐震化率見込

24.6%

6. 位置図

別紙のとおり

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]